彩の国 埼玉県

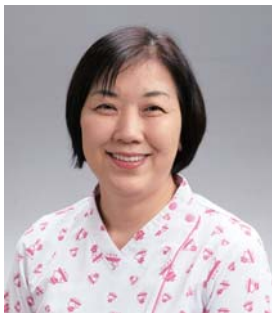
令和元年11月発行　第15号

埼玉県立 小児医療センターだより

●埼玉県立小児医療センター
〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel▷048-601-2200（代表）　Fax▷048-601-2201　E-mail▷n581811@pref.saitama.lg.jp
URL▷https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/index.html

～ 看護部のご紹介 ～

副病院長兼看護部長　黒田京子（くろだきょうこ）



本年４月久保看護部長の後任として、小児医療センター看護部長に着任しました黒田です。平成28年にさいたま新都心への病院移転を経験し、その後２年間看護の基礎教育に携わる機会を頂きました。現在の基礎教育のカリキュラムやその課題に触れ新規採用職員の教育背景や知識、技術の習得レベルなどを再認識することができました。この経験は今後の人材育成に多少なりとも還元できるものと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

小児医療センターでは、今いくつもの新たな課題に取組んでおります。平成29年にさいたま赤十字病院と連携のもと総合周産期母子医療センター、小児救命救急センターとして指定を受けました。今年４月から院内に、小児がんセンター、遺伝診療センター、移植センターが設置されました。当センターは、平成25年に小児がん拠点病院としての指定を受けており、治療はもとより長期フォローアップや緩和ケア、相談支援、そしてAYA世代と言われる青年期の患者さんの受け入れ体制の整備などにも力を入れてきました。そして小児がんセンターは遺伝診療センターの立ち上げとともに、４つ目のがん治療と言われる免疫療法やがんゲノム医療連携病院としての体制づくりに取組んでいます。移植センターは、さいたま赤十字病院と連携し生体肝移植の実施に向け準備をすすめ９月に第１例目の生体肝移植を行うことができました。更に今年１月には災害拠点病院の指定を受けました。小児の中核施設である当センターが指定を受けたことには意義がありますが、早急に人材育成を含め体制を整備する必要があると感じています。平成７年１月に発生した阪神淡路大震災以降、入院している子どもたちを守るためのイメージトレーニングとして開発された「３分間シミュレーション」を当センター看護部では実施してきました。平成23年３月に発生した東日本大震災以降は、常に防災への意識を高めておく必要性を感じ、日々の当直者間で災害が発生した場合を想定した役割の確認などを行ってきました。本年10月の大型台風19号による広域の被災状況を目の当たりにし、事業継続計画（BCP）の整備が最重要課題であると痛感しました。新病院に移転し環境の変化の中で強化された部分と形骸化された部分があるように思います。入院患者さんの安全確保、診療継続、そして地域へ貢献できるよう災害拠点病院としての体制を整備していきたいと考えています。

また、看護部では毎年多くの新入職員を受け入れていますが、昨年度は退職率が例年を上回る状況になりました。高度専門医療に対応できる質の高い看護が提供できる組織であり、職員一人一人が、看護部の理念である「子どもたちの未来のために子どもたちの最善を目指した看護を提供する」ことを目指す組織人であってほしいと思っています。そのためにも小児医療センターが職員にとって働き続けられる、働き続けたいと思える職場にしていきたいと思います。今働き方改革が求められています。日本看護協会は、患者の尊厳を守り、安全で質の高い看護を持続的に提供するために、看護職自身が安全に尊厳を持って働ける健康的な職場が必要と考え、平成30年３月「看護職の健康と安全に配慮した労働安全衛生ガイドライン　ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）を目指して」を公表しました。ヘルシーワークプレイスとは、①一人ひとりが健康で安全に自分らしく働きながら自己実現していくことができる職場環境・風土、②組織が職員を業務上の危険から守り、一人ひとりの健康支援に取組む職場環境・風土、③職員と組織の活力を生み出すことで、患者（利用者）へのケアの質を向上し、社会への貢献を目指す職場と定義されています。

当センター看護部では、ヘルシーワークプレイスの実現に向けて取組んでいきたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

埼玉県立小児医療センターだより　第15号　ご案内

○　副病院長兼看護部長あいさつ　……p.1
○　発達外来の紹介　……p.2
○　移植外科の紹介　……p.3
○　10A病棟の紹介……p.4
○　ICT・ASTの紹介　……p.5
○　お知らせ
「みんなの病院の日」の紹介　……p.6
受診の案内・病院へのアクセス　……p.6

＜診療部門紹介＞

発達外来

保健発達部（神経科）医長　菊池（きくち）　健二郎（けんじろう）

発達外来は、乳幼児期の運動・知的・精神発達における問題を指摘されたお子さんの診療をしています。埼玉県内外の各地域で実施された乳幼児健診からの精査依頼や各医療機関からの発達に関する診療依頼といった院外からの紹介に加え、当センターNICUを退院したハイリスク児や院内各診療科で経過観察しているお子さんの発達に関する診察依頼といった院内からの紹介を受けています。

月曜日から金曜日の午前中に小児神経専門医および小児科専門医が担当し外来診療を行っています。発達外来は、原則未就学児を対象としており、お子さんの発達上の問題点や症状の評価を行い、就学を見据えた療育や養育環境の体制整備などに関する相談やアドバイスを行っています。また必要に応じて、放射線学的検査、血液検査、神経生理学的検査などを行います。

療育に関しては、お子さんがお住まいの地域自治体にある療育施設への通園をお願いしていますが、地域での療育体制が不十分な場合は補完的に当センターの発達部門で対応することもあります。

「お座りをしない」、「歩かない」などの運動発達に問題があるお子さんは、診察や検査に加え、理学療法や装具などを導入することがあります。「言葉の遅れ」、「落ち着きがない」、「コミュニケーションが取れない」、「集団行動がとれない」などの知的・精神発達に問題があるお子さんは、作業療法、心理検査などを行うことがあります。

発達外来には、お子さんの発達に関して総合的な評価を行う部門（アセスメント外来）があります。アセスメント外来は１回のみの集団外来ですが、個別の発達外来では診断が困難なお子さんや保護者の障害受容や療育指導に課題がある場合に、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、臨床心理士といった多職種のスタッフが評価を行います。そしてお子さんの行動観察や保護者との面談を通じて、お子さんの抱える発達の問題点や課題に対し、診断やアドバイスを行っています。

発達外来は、お子さんの発達の特性から考えられる診断、保護者への心理的・環境的支援、就学に向けた体制作りのお役に立ちたいと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
初診患者総数（人）（重複あり）	６２７	５９９	５６４	６３５
院内紹介（人）	１９５	１９１	１５４	１７６
院外紹介（人）	４３２	４０８	４１３	４６２

外来担当医：　菊池健二郎、小一原玲子、松浦隆樹、平田佑子

発達外来の診察室

診察室の中は明るい雰囲気です

移植センター長　水田（みずた）　耕一（こういち）

移植外科は、2019年度（令和元年度）から、埼玉県立小児医療センターに新設された診療科です。隣接するさいたま赤十字病院と協力し、肝移植医療を必要とする子どもたちへ、安全な肝移植医療を提供します。スタッフ全員が所属した前任地（自治医科大学）では、300例の小児生体肝移植を実施し、移植後15年生存率95％と全国トップの成績を収めてきました。当院でも同様の成績が得られるよう、病院全体で一人ひとりの患者さんの診療にあたります。

肝移植の対象となる疾患は、胆道閉鎖症、アラジール症候群、進行性家族性肝内胆汁うっ滞症などの胆汁うっ滞性疾患を中心に、Wilson病、OTC欠損症、CPS１欠損症、シトルリン血症、メチルマロン酸血症、プロピオン酸血症、メープルシロップ尿症などの先天代謝異常症。その他、劇症肝炎、肝芽腫、先天性肝線維症、先天性門脈欠損症、新生児ヘモクロマトーシスなど、多岐にわたります。

小児医療センターとさいたま赤十字病院は、合同でさいたま新都心医療拠点・移植センターを設置し、約１年半の準備期間を経て、2019年９月25日に第１例目の生体肝移植を施行いたしました。病院内外の多くの皆様のご支援のもと、安全に手術を実施できましたことを心より御礼申し上げます。

廊下で繋がった運営母体が異なる二施設での臓器移植医療は国内初であり、新たな医療体制の先駆けでもあります。これからも私たちは埼玉県の末期肝疾患の子どもたちはもちろんのこと、関東甲信越・北陸・東北地方の肝移植を必要とする子どもたちとご家族のために安全で安心な肝移植医療を提供していきます。今後とも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

＜スタッフ＞
水田耕一（移植センター長、科長）、井原欣幸（医長）、平田雄大（医員）、田村恵美（移植コーディネーター）

＜レシピエント手術＞

＜バックテーブル手術＞

＜看護部門紹介＞

10A 病棟

師長　小久保（こくぼ）　知寿子（ちずこ）

10A病棟は主に血液腫瘍科の患者さんが入院しています。主な疾患は造血器腫瘍、固形腫瘍、良性の血液系の疾患などです。病棟には無菌室・準無菌室が各４床あり造血幹細胞移植が行われています。化学療法、放射線療法を受ける患者さんの看護だけでなく、造血幹細胞移植を受ける患者さんの看護も担っています。加えて当センターは昨年、がんゲノム医療連携病院に指定され、難治性の腫瘍で治療法が限られていた患者さんに、がんゲノム医療の適応が検討され、遺伝子検査が行われるようになりました。院内では看護師を含めた医療者に対し、がんゲノム医療に関する研修会を開催し、知識の習得に努めています。

10Aスタッフミーティングの様子

10A病棟に入院している患者さんの年齢は乳児から青年期と幅広く、長期入院を必要とする患者さんも多いため、看護師は医師、薬剤師、病棟保育士、心理士、理学療法士、チャイルドライフスペシャリスト、ソーシャルワーカーなど多職種と連携を取りながら、治療と並行して患者さんの成長発達を促すよう支援を心がけています。入院中の患者さんの多くは内服、点滴、検査などを継続して受けていかなくてはならないため、「どのようにしたら頑張れるだろうか。できるだろうか。」と考え、患者さん一人ひとりを支えるため、様々な方法を多職種で考えながらご家族を含めて支援をしています。その中で小学生、中学生の患者さんは、入院中も継続して教育支援が受けられるようけやき特別支援学校と連携を取っています。更に、AYA世代といわれる15歳以上の患者さんは、造血器腫瘍に関して成人の治療方法よりも小児の治療方法の治療成績が良いとされるため、10A病棟にも入院されます。そこで、けやき特別支援学校と連携し、高校生の患者さんへの教育支援にも努めています。昨年度から県立高校に限り、けやき特別支援学校での授業の出席が県立高校の出席と同等に扱われるようになり、単位修得につながるようになりました。また、高校生以上の患者さんは心理士が主催する「心理ピアグループ」に参加することで、他病棟に入院している血液腫瘍科の同年代の患者さんと定期的に関わりが持てるようになり、病院としてAYA世代への支援にも努めているところです。長期入院の患者さんが元の学校に戻る際には、医療者より教員やご家族に対して復学する際の注意点などを説明して、少しでも退院後の生活に困らないよう支援をしています。

多職種カンファレンスの様子

季節の飾りで子どもたちをお迎えします

このように10A病棟では、長期入院が必要な患者さんとご家族が、安心して入院生活が送れるように日々、多職種と協力し支援しています。

＜コ・メディカル部門紹介＞
感染対策チーム（ICT）
抗菌薬適正使用支援チーム（AST）

感染免疫科・アレルギー科　科長　菅沼（すがぬま）　栄介（えいすけ）

病院は多くの方が出入りし入院しています。その中には病気や治療により免疫が低下しているお子さんや感染症にかかると重症になる可能性が高いお子さんも多くいます。

当センターではこのような環境の中で感染が起きないよう予防したり、感染症を早期に発見し拡大しないよう対応するために感染防止委員会を設置し、さらにその実働部隊として**感染対策チーム（ICT）**と**抗菌薬適正使用支援チーム（AST）**が設置されています。

ICT は病院で発生する感染を未然に防止し、発生した感染症を早期に制圧するために活動しています。AST は感染症の治療効果を高め、耐性菌の出現を抑えるために検査や抗菌薬について支援を行っています。ICT、AST 共に医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など多職種で構成され、病院に関わる患者さん、ご家族、職員を含めた病院内のすべての方の感染を予防するために活動しています。

感染対策チーム（ICT）・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の活動内容

- 手洗い・手指消毒を中心とする標準予防策の実施
  ＊標準予防策：すべての人が何らかの感染症を持っている可能性があるものとして、
  手洗いや手袋の着用など対処をする、感染対策の基本
- 感染症別・処置別の予防策実施
- 院内ラウンドによる感染防止対策の確認・指導
- 感染対策に関する職員教育、相談対応
- 感染症発生状況の把握と感染症発生時の対応
- 感染防止対策・抗菌薬適正使用マニュアルの作成・改訂
- 感染症に関わる検査の適正化
- 特定抗菌薬投与モニタリングと適切な診療を目的とした介入
- 地域医療機関および全国の小児医療施設との連携

職員対象の講習会も開催しています！

「10／15　世界手洗いの日」
２階正面玄関に手洗いに関するパネルを
展示しました。

お知らせ

10月10日（木）「みんなの病院の日」開催

多くの団体や患者会のみなさんにご協力いただき**「みんなの病院の日」**を開催しました。
当日は患者さん、ご家族に大変喜んでいただきました。
みなさん、**「おりがみドライブ」**をご存知ですか？
「おりがみドライブ」は家に眠っている使わない折り紙を寄付していただき、その折り紙で患者さんにプレゼントを作ったり、プレイルームに置いて自由に遊んでもらう活動です。
「みんなの病院の日」では多くの折り紙の寄付をいただきました。ありがとうございました！
折り紙は大切に使わせていただきます。
今後もボランティアの作る折り紙作品にご期待ください。

ボランティアさんと「おりがみドライブ」

折り紙で作った「ジャック・オー・ランタン」をプレゼントしました

医療機関の皆様へ　受診のご案内

①患者ご家族からのご予約

紹介元医療機関 → 紹介状（診療科が明記されているもの）

患者さん予約の電話 →

予約センター
受付時間（9時～17時　土日祝除く）
一般外来
☎048-601-0489
保健発達部門
☎048-601-2165

患者さん来院 →

予約当日にお持ちいただくもの
①保険証
②医師の紹介状
③母子健康手帳
④医療券
（公費負担を受けている方）

②医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ

紹介元医療機関

→ **緊急診療（当日診療）の場合** → 電話交換手へ緊急性があることをお伝えください（365日24時間対応可能）

→ 診療科が明確な場合はその**「診療科医師」**へおつなぎしますので、ご相談ください

→ 休日・夜間又は、診療科が不明確な場合は**「救急診療科医師」**へおつなぎしますのでご相談ください

小児医療センター　代表電話
☎048-601-2200

→ ・当日の受診ではないが早期診療が必要な場合
・紹介状の診療科が不明確で相談したい場合
→ 電話交換手へ相談内容をお伝えください
受付時間（9時～17時　土日祝除く）
→ **「地域連携室」**が対応します
まずは現在の症状が分かる診療情報提供書をFAXで送っていただき、調整の上ご連絡します
FAX番号 048-601-2237

病院へのアクセス

■公共交通機関をご利用の方

- JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
- JR埼京線「北与野駅」から徒歩約6分

※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- 駐車場は有料になります。
- 機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。

※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。
できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。